

プロジェクト名：ケニア国タナデルタ灌漑事業に係る援助効果促進調査

(調査期間：1998年7月～4.0ヵ月、担当業務：農業及び環境)

調査背景

1986年タナ河流域開発公団は、OECFの資金援助によりタナ灌漑開発事業が開始され、1997年に完了した。しかしながら、同年12月にエルニーニョ現象による異常降雨とそれに伴う洪水により、建設後間もない灌漑施設は大きな被害を被った。この状況下で、OECFは本事業に係る援助効果促進調査を実施した。主な目的は、洪水被害の程度を明らかにし、事業の復旧と将来の継続的な維持に向けた最適計画の策定にある。

調査概要

SAPS調査団は1998年7月から約2ヶ月間の現地調査を行い、引き続き日本国内において適正な事業復旧計画の策定に係る検討・解析を実施した。現地調査においては洪水被害状況の確認、営農現況調査、環境現況調査、復旧計画比較案の策定等を行った。ここでは、事業の将来の在り方を踏まえた上で、灌漑・営農活動の再開の緊急性、復旧事業による社会・経済環境の改善効果等の復旧事業のプラス要因と、公団の返済能力や運営組織面の課題等のマイナス要因との整合性のとれた適正規模の復旧計画策定を図った。

担当事項

- 営農現況の調査並びに畑作物導入の可能性の判定と規模の確認。
- 社会環境に対する洪水被害調査並びに現地コンサルによる自然環境影響調査。
- 営農作付計画案の概定並びに復旧計画比較案の概定。

